

6年 算数科「場合を順序よく整理して」

第6学年算数科「場合を順序よく整理して」の授業を公開しました。個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して、単元のポータルサイトを作成し活用しました。ポータルサイトは、①単元のねらい②既習の学習③学習計画④学びの広場⑤ふり返りの項目をつくっており、児童がほしい情報を閲覧・確認できるようにするとともに、学びを蓄積できるように工夫しました。

また、問題解決の過程で気付いたことや解決方法、学んだことを各自で1枚にまとめ、クラウド上にあげることで、協働学びを促すようにしました。

単元ごとにポータルサイトを作成

単元ごとに「学びの地図」となるポータルサイトを作成した。

既習の学習

この単元の学習を学ぶための既習事項がわかる。

学びの広場

1時間ごとに各自でまとめたノートがあげられ、友達のノートも見る事ができる。

学習計画

この単元でどのような問題を解いていくのか確認できる。

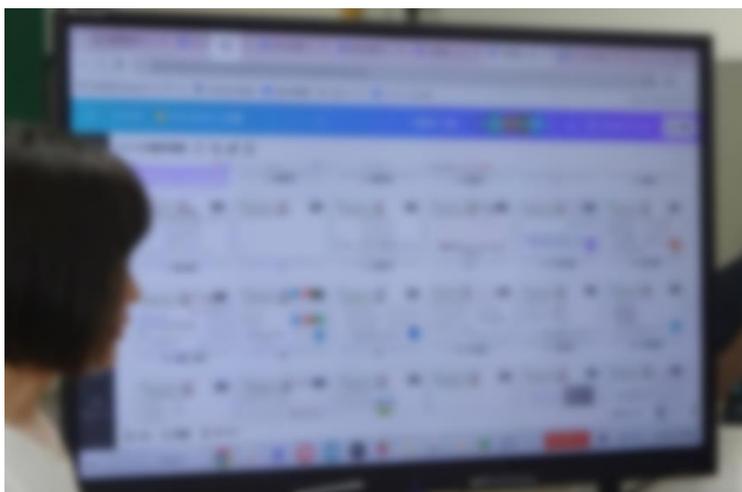
ふり返り

毎時間のふり返りを蓄積する。ルーブリックをもとに自己評価し、1時間の学びをタブレットシートに書き込む欄をつくった。

単元について

この単元のねらいがわかる。ゴールの姿を確認することができる。

ルーブリック



電子黒板に全員の学習過程をあげ、他者参照



タブレットとノートの自己選択

3年 算数科「何倍でしょう」

3年1組 「何倍でしょう」

ループリック

A: 図や式を使って、倍が2つあるときの2通りの答えの求め方を考え、説明する。

B: 図や式を使って、倍が2つあるときの2通りの答えの求め方を考える。

C: 図や式を使って、倍が2つあるときの答えの求め方を考える。

3年生 交流のポイント

安心してとりくみたい！ 考えを上げたい！ ぶかめたい！

かくにんしたい！
考えが
にている人

なかのよい人

考えを上げたい！
ぶかめたい！
考えが
ちがう人

もっとよい考えは？ とくいな人 **だれと学ぶ？** いっしょに考えたい！ にがてな人

なぜ、その人のところへ？
理由がはっきりするといいな！

学習のしかた

☆ひとりで
さいごまで考え続ける・ちがう考えを見つける
タブレットで友だちの考えを見て、さんこうにする
☆友だちや先生と
いっしょに考える・考えをせつ明し合う

考えの表しかた

- ・ノート
- ・キャンパ(ポータルサイトの学びの広場)

自己決定の質を高めるために！



「倍が2つあるとき、どうやって求める？」という問題意識をもってループリックをもとに、学習の仕方や考えの表し方を自己選択・自己決定していきました。

6年 算数科「データの整理と活用」

6年4組 「データの整理と活用」

ループリック

A: データを2つ以上の方法で分析し、説明する。

B: データを2つ以上の方法で分析する。

C: データを1つの方法で分析する。

データの整理と活用

単元の
目標

学習計画

既習の
学習

クイズ
出題

学びの
広場

振り返り

宝 箱

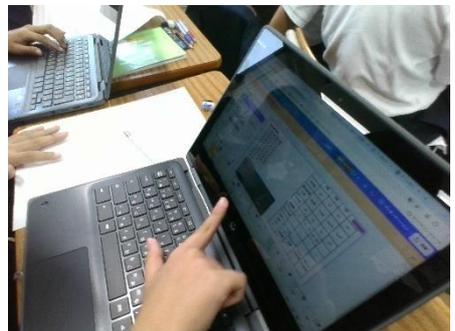
1-ドットプロット

2-度数分布表

3-ヒストグラム

4-ヒストグラム2

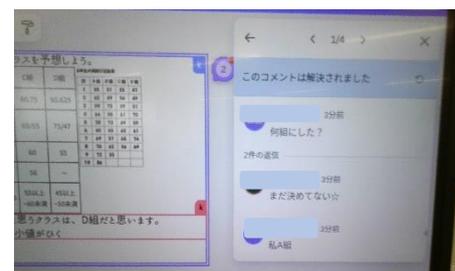
5-まとめの表



単元のポータルサイトの中に宝箱のコーナーを作りました。この中に、これまで活用した図やグラフなどを入れておき、いつでも使えるようにしました。

本時は、これまでの学習を生かして、「スポーツ集会でたくさん跳ぶクラスを予想しよう」というパフォーマンス課題に挑戦しました。

複数のデータを分析し、根拠をもとに予想を出し合いました。Chatを使っての交流についても指導中です。



協議会

授業後の協議会では、「個別最適な学びをすすめるための教師の手立てとは」をテーマに協議しました。

参加者の方に、フォームでのアンケートに答える形で協議をすすめ、協議後にそれぞれが大切にしたい手立てを再度アンケートにあげていただきました。スクリーン上で chatGPT を活用して分類整理し、協議をまとめました。



R6年度 リーディングDX 「個別最適な学びをすすめるための教師の手立て」についてのアンケート結果	chatGPT で意見を整理
アンケート②の分類と分析を以下の通り行います。	
### 1. **ICT活用と教材研究** - **内容**：「ICT機器の活用」「ポータルサイト」「キャンパ・クラスルームの活用」 - **分析**：ICTを使った学習の最適化や、既習事項の確認など、ポータルサイトやスタディログを活用することへの関心が高まっています。	
### 2. **児童の自律学習支援** - **内容**：「児童が自分の学び方を選ぶ」「自己選択」「学びの工夫」 - **分析**：児童が自ら学び方を選択できるようにするための準備や支援に対する	

協議後、中村学園大学の山本朋弘教授から指導助言をいただきました。主体的な学びでの教師の出番と支援について学ぶことができました。今後は、コーチングの考えを参考に学びの途中の支援を考えていきたいと思えます。

